

今朝の冷え込み、また午後には冬型の気圧配置の影響からか山並みが霞んで見えた時間帯もありました。今週末はもう11月、手がかじかんだり、首もとから寒さが忍び寄る季節が近づいています。この3連休には、衣服の冬支度をお願いします。体調管理も含めて、夏・秋仕様から冬仕様への切り替えをよろしくお願いします。

家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

たかが「鉛筆の持ち方」ですが・・・ちょっと気になってます

こんな話をすると「昭和か!」と突っ込まれそうです。が・・・強いこだわりを持って「なんとかしたい!」という思いはありませんが、子どもたちの可能性をもっと引き出せるかも?と気になっています。

手先の器用さや巧緻性は、以前から育児・教育の分野では重視されていて、子どもの発達に深く関わっていると同時に、認知機能や運動能力、創造力の向上にも影響があるとも言われています。

子どもの能力を高めることにつながってくる可能性があると考えられるので読んでいただければ幸いです。(決して押しつけないのではありません・・・)

昭和から平成、そして令和と時代が進むに連れて、日本人の売り・強みとも言える「手先の器用さ」「巧緻性(こうちせい)」が低下してきているのではないかと感じています。日常生活で蛇口をひねったり、マッチを擦ったり、ビー玉やおはじきなどで遊ぶような機会が激減し、「握る」とか「つまむ」という場面が少なくなっています。平成後期から令和の子どもたちは、例えばゲーム機のコントローラーやスマホ画面等に象徴される「押す・叩く・タッチする」という単純な動きがとても多いように思います。その結果が鉛筆の持ち方や箸の持ち方、また筆圧の現状として現れているのではないのでしょうか。

今回は、鉛筆の持ち方を例にして考えてみます。

◎ **正しい持ち方**

- 親指と人差し指で鉛筆をつまむ
- 人差し指を鉛筆に削り端から 0.5~1.0cm ほどの位置に置く
- 親指や人差し指より少し後ろに置く
- 中指は、鉛筆を下から支える
- 手のひらに卵が入る位の空間を作る

<正面から見ると>

- 六角鉛筆の場合は、6面の「ひとつおき」に人差し指、親指、中指をそれぞれ置く
- ※ 三角鉛筆・おにぎり鉛筆だと覚えやすいですね



● 直したい持ち方

<にぎり持ち>	<はさみ持ち>	<かぶせ持ち>
○ 親指の腹で鉛筆を支えていないので不安定になり、文字が素早く書けないことに加えて、文字のバランスも悪くなりがち	○ 親指がほぼ休んでいるので鉛筆が固定されず、力が入りにくいため筆圧も弱くなりがち	○ 力が入りすぎて手指や肩が疲れる原因にもなり、ペン先の可動範囲が狭いため、文字が雑になりがち

「正しい鉛筆の持ち方」、そしていくつかパターン化された「直したい持ち方」を学研のHPから抜粋して紹介してみました。お子さんの鉛筆の持ち方はどうでしょうか?

なぜ、こんなことを言うのか、それは鉛筆を正しく持って書けるようになると、子どもたちは、以下のようなメリットを得られる可能性があるのです。

- ◎ 文字をきれいに書く⇒書くことに自信がつく ⇒ノートやメモを取る意欲向上⇒学習意欲向上
- ◎ 余計な力が入らない⇒疲れにくい⇒集中力UP
- ◎ 早く書けるようになる⇒思ったこと・考えたこと・大事なポイントをサッと書ける ⇒発表力・理解力UP

たかが鉛筆の持ち方ではありますが、字を褒められたり、発表を上手にするための準備



がスムーズにできたりといった成功体験から、自信や自己肯定感が高まることで、学習面だけでなく、日常生活や交友関係の面でも前向きになるのではないのでしょうか。また、自分の書きたいように書けるということひとつをとっても、自分の得意なこと・上手なことの1つになれば、自分のことをもっと好きになれるのではないのでしょうか。

